

野田九条通信

2016年12月132号

野田・九条の会 事務局
☎04-7122-0502



野田 九条の会

検索

定例会へのお誘い これからの九条の会 方向を見い出そう

野田・九条の会11月の定例会は、これからの私たちの運動について話し合いました。安保法制が施行され、いよいよその実行である南スーダンへの自衛隊の武器使用も含めた派遣、そうやってじわじわと憲法が実質的に崩されていく中、私たちはどう運動を展開していったらいいのか。「アメリカとの安保条約をどうするののか」という問題を真剣に議論し、方向性を出していかなければならないのではないかと、この会をしっかりと運営していく気概を持って参加しな

方なら誰でも出席できます。そこで来月から時々テーマについて自由に意見交換する時間を取ることにしました。受け身ではなく討論することで発信する力をつけたいと思います。12月のテーマは「PKO 駆けつけ警護」です。ラジオ番組を参考に話し合います。毎月第2土曜日定例会です。時間と場所は先の予定表で確かめてご参加ください。この運動に賛同する方なら誰でも出席できます。

マスコミへの手紙

世論形成にマスコミの影響は大きいものです。この頃のマスコミはおかしいと嘆くだけでなく、市民の味方になるように、手紙を出しましょう。新聞記事、テレビ番組のおかしところ、よかったところ具体的に担当者に伝えましょう。送った方は編集部にも送ってください。

朝日新聞 〒104-8011
東京本社 中央区築地 5-3-2 社会部
FAX03(3545)0285

毎日新聞 〒100-8051
東京本社 千代田区一ツ橋 1-1-1 社会部
FAX 03(3212)0635

①今月の予定

12月3日(土) 13:30~16:00
DVD上映とディスカッション 後半上映
映画「沖縄 うりずんの雨」
北コミセン 川間九条の会

12月3日(土) 13:30~16:00
DVD上映とディスカッション
「村人は満州へ送られた ~"国策"71年目の真実~」
中央公民館講座室 子どもの未来を語る会

12月4日(日) 13:30~16:30
DVD上映とディスカッション
「沖縄の過去・現在を知る」
南部梅郷公民館 南地域九条の会

12月9日(金) 16:30~17:30
9の日行動 駅頭活動・九条通信配布行動
川間駅北口 野田九条の会

12月10日(土) 10:00~12:00
野田・九条の会 定例会 学習「PKO 駆けつけ警護」
樺のホール研修室

12月10日(土) 13:30~
高江オスプレイ・パッド
辺野古新基地の建設を許さない!
東京集会 愛宕駅 12:37 発
日比谷野外音楽堂 柏行き先頭車両乗車

一緒に行きませんか?
愛宕駅 12:37 発
柏行き先頭車両乗車

山口二郎氏講演会 170名熱心な議論!

11月26日の山口二郎氏による講演会は北コミ中ホールに一七〇名もの参加がありました。安倍政権に適切な批判的論陣を張っている山口先生に直接聞きたいと考える人の多さは、私たちの運動の広がりを感じるものでした。講演は安倍政権やアメリカのトランプ大統領の出現などの現状分析、日本政治の課題、来る次期選挙での野党協力の在り方、立憲主義と経済問題での富の再配分(格差、貧困)などで共通政策を作ることはできる、政権交代をあきらめてはいけない。野党は政権を任せるといいという安心感をどう作り出すかが課題と。たくさんの質問にも誠実に答えてくださり、対米自立については、すぐに何かができるわけではない。少しずつやりました。講演内容は録音します。



九条の眼 トランプは日本を変えるか

アメリカは何が変わるのでしょうか？

アメリカの次期大統領はトランプ氏と決まりました。大方の予想を覆した選挙結果は世界中に衝撃波となって広がっています。このショックは何を変えようとするのかを考えてみましょう。トランプ次期大統領の政策が明らかになるのは就任を待たなければなりません。選挙期間中の演説でハッキリしたことがあります。経済力、軍事力を背景に世界に影響を与えてきた米国でしたが、別の道をたどろうとしていることです。

支持したアメリカ国民は国外より国内を重視した政策を明確なものとして求め、暮らしを重視し経済大国として相応の分配に預かりたいとの要求したのです。従来の路線をハッキリと否定する選択をしました。

日本への影響は？

選挙結果は安倍首相を驚かせ、既に自らの政策への影響を懸念しその対応を迫られています。さて、私たちはどう考えますか。「全く関心がない。」「少しは気になる。」「心配だがどうすればいいかわからない。」人それぞれでしょう。ですが日本という国の主権者として、また有権者として、仕事、家族、自分自身の生き方として考えると、アメリカには必ず影響され、何らかの関わりが生じてくるということだけは心に留めておくことが大切ではないでしょうか。

アメリカとは TPP の行方や沖縄米軍基地問題、南

スーダンへの安保法制による PKO 派遣、原子力協定に関わる原発政策、被爆国としての立場を覆す核不拡散条約の否認、更に日本の行く末を根底から見直すことになるやもしれない日米安保条約に関わる重大な案件などが出てきたのです。

これらは全て米国の影響下にあります。独自判断で進められることではありません。日本の国の在り方から私たちの日々の生活に至るまで必ず影響してきます。大統領の任期は 4 年ですが舵を大きく切ろうとするこの時無頓着ではられません。

子供たちに日本の目指すところを話しましょう

安倍首相は政権の生き残りをかけ色々な方策を巡らすでしょうが、その政策は国民の不透明感を増すことになるでしょう。その中で最優先に取り組むのは改憲であると思えるべきです。国民の半数以上は改憲を望んでいませんし、気運の高まりもありません。しかし、米国が大きく変わろうとするこの時をチャンスとらえ、一気にスピードを上げることは確実です。

私たちは戦後 70 年の歴史に「平和な国日本」を刻んできました。次の世代を担う子供たちにどのような世の中を引き継いで行くのか、この機会に自身の考えを確かめてみましょう。子供たちに日本は“戦争をしない”、“核兵器を持たない”と話すこと、それはとりもなおさず自身の生き方を確かめることでもあるのではないのでしょうか。

事務局

憲法守れ！独裁政治は許さない！

飢餓と戦争疲れの中、1946 年 11 月日本国憲法公布、翌 47 年 5 月 3 日施行、廃墟の中から戦後復興への力強いあと押しとなった。戦中体験の反映か国民主権、平和主義、自由と基本的人権これらの命題の中味を知る程に日本国憲法がまぶしく新鮮に輝いたものだ。

安倍政権は災害対策をだしに「緊急事態条項」から憲法改悪の窓口を変えてきた。国会を通さず内閣の独断で法令がつくられることから人権抑圧、独裁政治の芽が覗く。歴代政府が違憲としてきた「集団的自衛権の行使」を「限定的なら合憲」と一内閣が一方的に憲法解釈をひっくり返した。

憲法の理想に近づけるべく努力するのが政治の在り方ではないのか。ここでも立憲主義否定独裁政治の芽を孕む。他方、この間どさくさ紛れに強行した秘密保護法、盗聴法、司法取引、法案提出が予定されている共謀罪は戦争法（安全保障法制）と表裏一体となって戦争ができる仕組みとなる。

いまや日米同盟は安保条約の枠を超えて自衛隊が世界中で米軍と行動を共にすることになり、さらに自衛隊は武力行使が出来るとされて内戦状態の南スーダンへ送られている。安倍政権の暴走を許さず、二度と戦争の惨禍を繰り返さないよう、主権者としての役割を果たしたい。

大井 治房